

- ⑦ テレビ番組「ちいさな世界」の放映  
15分間のカラー番組を福島テレビに制作委託し、平成5年10月から翌年3月まで、日曜日の11時30分から26回放映した。
- ⑧ 学習ビデオ教材の作成  
「ちいさな世界」をビデオ教材として編集し、視聴覚ライブラリーの管理により県内に貸し出しを行った。
- ⑨ 家庭教育指導資料の作成・配布  
家庭教育上の課題や諸問題について研究成果を資料としてまとめ、関係者や関係機関に配布し、学習活動や研修会での活用の促進を図った。

## 第6節 視聴覚教育

### 1 概要

県民の心のふれあいと生きがいを求める生涯学習への意欲が高まり、各地で様々な学習活動が活発に行なわれている。

その学習要求は、量的に増大するばかりでなく、質的にも高度化してきている。このようなとき、学習効果を高め、興味深く学習活動を展開するための手段として、視聴覚教育の果たす役割は極めて大きい。

#### (1) 市町村視聴覚ライブラリーの整備充実

視聴覚教育推進の拠点としての市町村視聴覚ライブラリーが、視聴覚機器・教材の収集及び保管と、その利用に供する事業のほか、郷土に関する視聴覚教材などの自主製作事業や各種の研修事業等を行なう視聴覚センターとしての働きを行なうよう指導にあたった。

また、近隣の視聴覚ライブラリーには、相互に各情報の交換を行ない、視聴覚教材の相互貸借、研修の共同実施などを行なうことに積極的に取り組むよう助言、指導に努めた。

#### (2) 視聴覚教育指導者研修の充実

市町村教育委員会、視聴覚ライブラリーなどの関係機関による視聴覚機器操作講習会の実施を促進した。また、学校教育及び社会教育関係者を対象とした、視聴覚教育中堅指導者研修会の整備充実を努めた。

#### (3) 視聴覚教育関係団体との連携

県視聴覚ライブラリー連絡会との連絡を密にし、組織の充実と改善を図るよう助言・指導にあたった。また、視聴覚教育の一層の振興を図り、当面する諸方策の実践について総合的に研修する県視聴覚ライブラリー研究協議会を開催した。

さらに、学校教育各校種別研究会が加盟する、県視聴覚教育連絡協議会との連絡を密にし、各校種の研究組織の連携が十分に図られるよう助言、指導にあたった。

#### (4) 放送利用学習の振興

学級・講座・グループなどで、放送メディアを利用した学習が、最も身近で、しかも効果的な学習方法であると言われており、放送器材を利用して学習する方策について研修するための「放送利用セミナー」を生涯学習県民講座の

一環として年に1回実施し、放送利用学習の振興に資している。

## 2 第23回東北地区社会教育放送セミナー

- (1) 期 日 平成5年9月16日(木)～17日(金)
- (2) 会 場 郡山市視聴覚センター、郡山市立中央公民館
- (3) 内容・方法
  - ① 研究主題  
「生涯学習に生かす視聴覚教育と放送教育を考える」
  - ② 講演  
ア テーマ 「生涯学習とメディア」  
イ 講師 宮城教育大学教育学部教授 雪江 美久
  - ③ NHK放送文化セミナー  
ア テーマ 「生涯学習と講座番組の利用」  
イ 講師 NHK放送文化研究所研究員 原田 美子
  - ④ マルチメディアパソコンセミナー  
ア テーマ 「マルチメディアパソコンの学校教育への利用」  
イ 講師 福島県教育センター 唐木 義則
  - ⑤ 視聴覚ライブラリーセミナー  
テ マ 「視聴覚センター・ライブラリーの現状」
  - ⑥ 施設見学  
場 所 福島県ハイテクプラザ  
256人

## 3 視聴覚教育指導者研修会

対象者種別	期 日	会 場	
社会教育関係者	6月15日(火) ～17日(木)	郡山市視聴覚センター	
学校教育関係	小学校教員	1 10月27日～29日	県教育センター
		2 7月26日～28日	
	中学校教員	1 11月10日～12日	一次：パソコン 共通：VTR
		2 10月19日～21日	
高等学校教員	11月29日 ～12月1日		

※小学校1、中学校1……………C A I教材作成等  
小学校2、中学校2……………V T R教材作成等

#### ◎参加者数

〔社会教育関係者〕 92名

市町村職員、市町村教育委員会職員、視聴覚ライブラリー・センター職員、公民館・図書館職員、その他社会教育関係施設職員等

〔学校教育関係者対象事業〕 95名

小学校43人、中学校42人、高等学校教職員10名